

花とみつばちのにぎわう 元気な里山づくり活動

宇都宮大学雑草管理教育研究センター
一般社団法人里山大木須を愛する会
大木須自治会

宇都宮大学 学生サークル ほんわか里山物語♪～おおぎす自然体験村～



目次

- ① 養蜂を始めた背景
- ② 養蜂を軌道に乗せるためには
- ③ 今年度行った取組
- ④ 今後の課題

①

背景

大木須の現状

高齢化・過疎化
の進行

⇒ 人手不足の深刻化

農地・森林の
管理が停滞

雑草害・野生鳥獣
被害の発生

地域経済の衰退

集落の景観悪化

①

背景

養蜂で地域課題を解決



①

背景

養蜂で地域課題を解決

野生鳥獣
被害軽減

蜜源植物を遊休農地
耕作放棄地で栽培

⇒遊休農地や耕作放棄地の解消

野山を手入れする
機会の増加

野生鳥獣
被害軽減

景観悪化
の改善

集落の環境整備

⇒交流・関係人口の増加

収集物の販売

⇒地域の新たな収入源を
確保

地域経済
の再興

1

背景



養蜂を軌道に乗せ
ビジネスとして展開することを目指す

②

養蜂を軌道に乗せるために

- I. 蜜源・花粉源の確保
- II. 大木須地域に合った養蜂のゴールを見出す



②

養蜂を軌道に乗せるために

I. 蜜源・花粉源の確保

II. 大木須地域に合った養蜂のゴールを見出す



3

取組

夏の蜜源アニスヒソップは満開に！

3

取組

秋から初春に咲く蜜源の確保が課題

キバナコスモスの栽培法確立を目指す！

3
取組

キバナコスモスの栽培

異常な暑さや雨の影響で9月ごろまでうまく育たず…

3
取組

秋の蜜源としてソバにも着目

綺麗に咲かせることが出来ました！

②

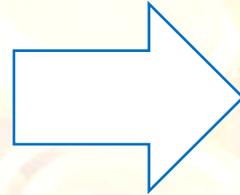
養蜂を軌道に乗せるために

I. 蜜源・花粉源の確保

II. 大木須地域に合った養蜂の
ゴールを見出す

どのようなゴールが大木須地域に 適しているのか

現状①
地域経済が衰退し
ている



新たな地域の収入源となる
ゴール

里山おおぎすの魅力は自然の恵みを活用していること



この部分に着目した商品、サービスの魅力向上が必要

どのようなゴールが大木須地域に 適しているのか

現状②
高齢化・過疎化による
マンパワー不足



手がかからない
方法を用いたい
⇒作業の省力化などが
現実的

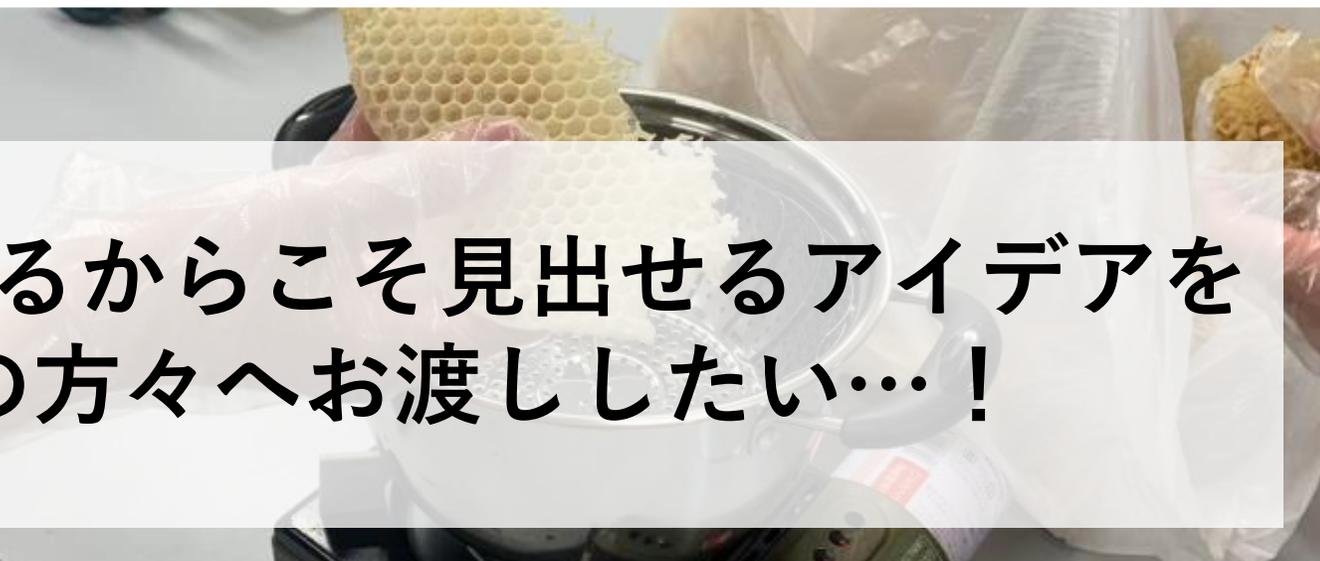
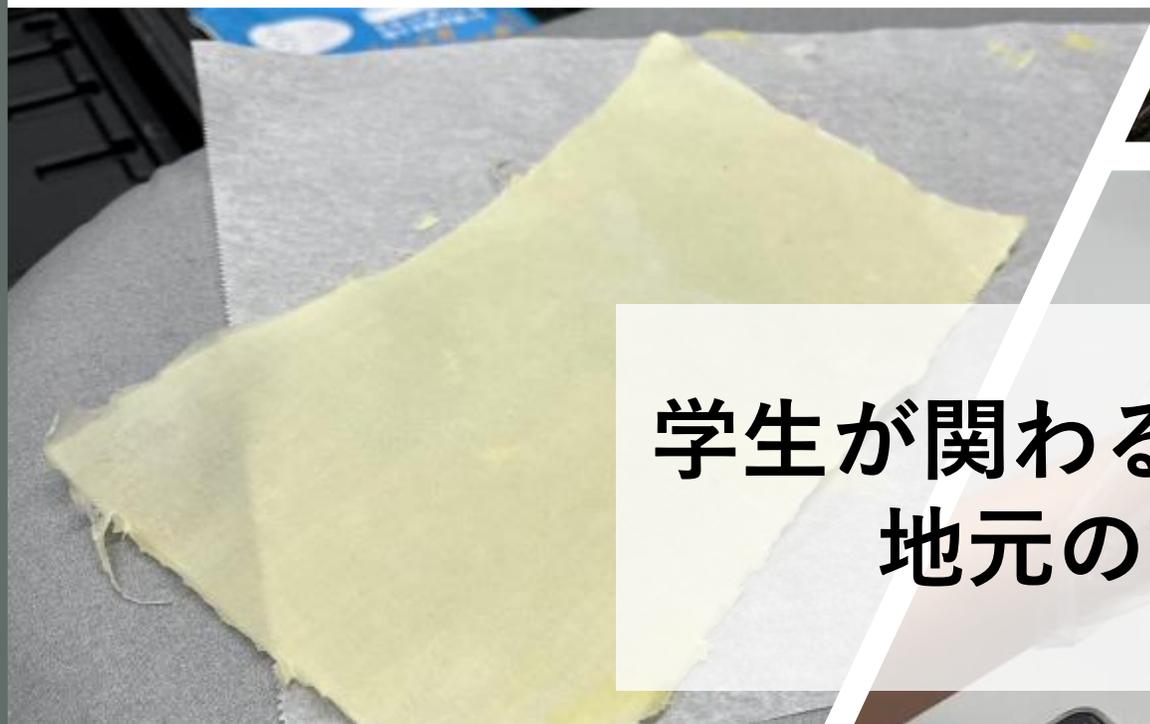
3
取組

大木須地域に合ったゴールを見出すためには
既存の方法だけでなく、新たなアイデアの検討も必要

蜂蜜・蜜蝋に着目

3

取組



学生が関わるからこそ見出せるアイデアを
地元の方々へお渡ししたい…！

3

取組

目標1 蜂蜜の販売方法を模索

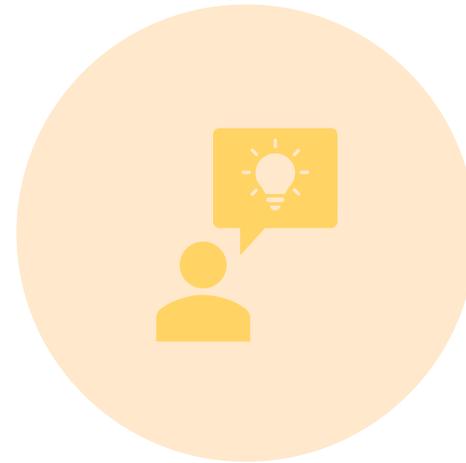
目標Ⅰを掲げた理由

- 今採れているが活用できてない蜂蜜。自然食志向の高まりなどから見て需要は高い。単価を高く設定できる。
- 地域資源、自然の恵みとして価値化できる可能性も高い
 - 地域課題である**経済の衰退を改善する手段として有効**。地域の新たな収入源になり得るのに、活用しないのはもったいない…！
- 人手不足を考えると、蜂蜜を加工した商品の販売は非現実的。
 - **蜂蜜そのものの販売**を検討するべき。

販売方法を考えるワークショップを開催



蜂蜜を地域の新たな収入源にするためには商品の魅力を引き出す必要がある



多様な主体が参加する
ワークショップで
新たなアイデアを見出す

- ・住民
- ・様々な学部
の学生
- ・大学教授
- ・県職員
などが参加！

地元の方からの要望

高齢化・過疎化による人手不足
⇒新しい取り組みを始めづらいのが現状

蜂蜜を販売したくてもどこから手を付けて
いいかわからない…



地元の方からの要望

大木須の蜂蜜の良さを実感しつつ
販売について考えられるワークショップに
してほしい！



ワークショップのねらい



多様な主体が意見を
出し合うことによる
魅力的な商品アイデアの創出



地元の方々に
蜂蜜販売に対して
前向きになってもらう

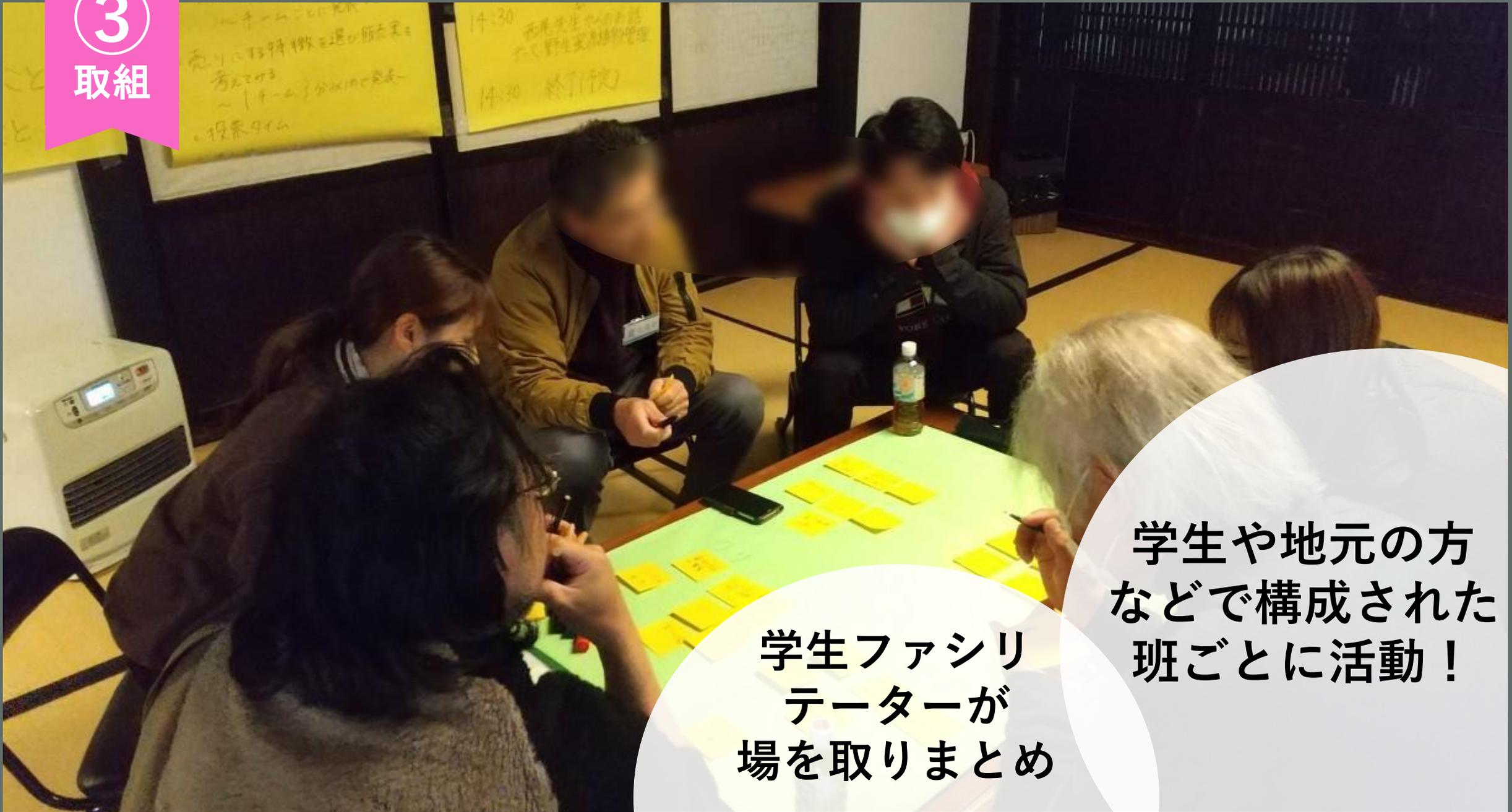
3
取組

ワークショップを開催



魅力的な商品アイデアを見出すことを目指す！

3
取組



学生ファシリ
テーターが
場を取りまとめ

学生や地元の方
などで構成された
班ごとに活動！

3
取組

A group of five people are seated around a large wooden table in a room with traditional Japanese-style windows. They are engaged in a tasting session. On the table, there are several small jars of honey, some of which have been opened. There are also white plates, yellow sticky notes, and pens. One person is writing on a sticky note. The atmosphere appears to be a collaborative workshop or meeting.

大木須の蜂蜜を試食し、その特徴を書き出してみる

八木須貝のはちみつの特徴

① 蜜群のおいしさ

複雑な味。甘みに層がある⇒甘みの十二重
香りが良い、後味の良さ。

② 多くの種類

⇒大木須の四季を感じられる

③ 色がきれい

④ 里山、大木須産! (少量ゆでの特別感)

⑤ 自然に感じられる (花の香り、里山の花々)

たくさんの特徴が
挙がりました!

3
取組

見出した特徴を生かした販売方法を 考えてみる

地元の方からもたくさんのアイデアが飛び出してきました！

3

取組

発表



様々なアイデアが出ました！

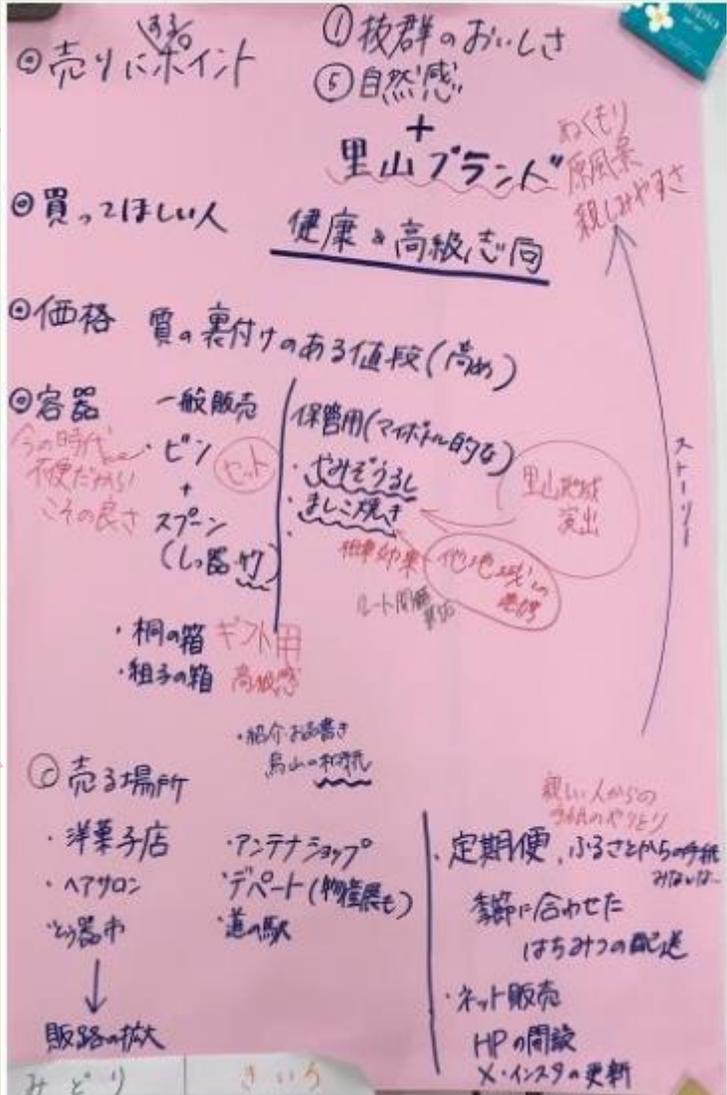


里山ブランド
を重視！

様々な種類の蜂蜜と
里山のものを組み合
わせる！

他地域との
連携も

生活に寄り添った
商品に！



3

取組

目標 II
蜜蝋加工のアイデアや
ノウハウの提供

活動内容

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
計画	話し合い							
ミツロウ精製		ミツロウ精製						
キャンドルづくり			試作・実験					
藍染			有識者へのインタビュー 藍染実施					
ミツロウラップ				試作・実験				
体験コンテンツ 検討			検討					
地元の方々への 報告会						報告会		
ハンドクリーム							試作・実験	

付着した匂い問題



幼虫や卵を巣から洗い流す
ことにより改善



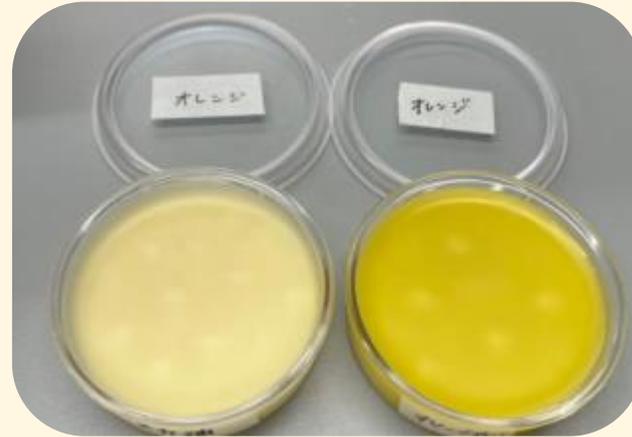
食品に触れる蜜蝋ラップや香りづけをしない
蜜蝋キャンドルの製作が可能に！

3
取組

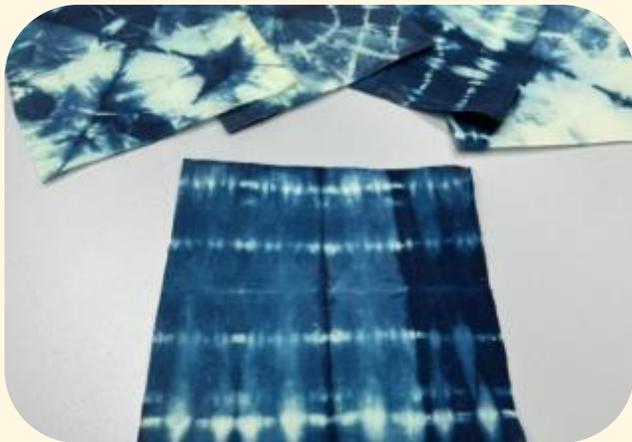
製作品



ミツロウ
キャンドル



ミツロウ
ハンドクリーム



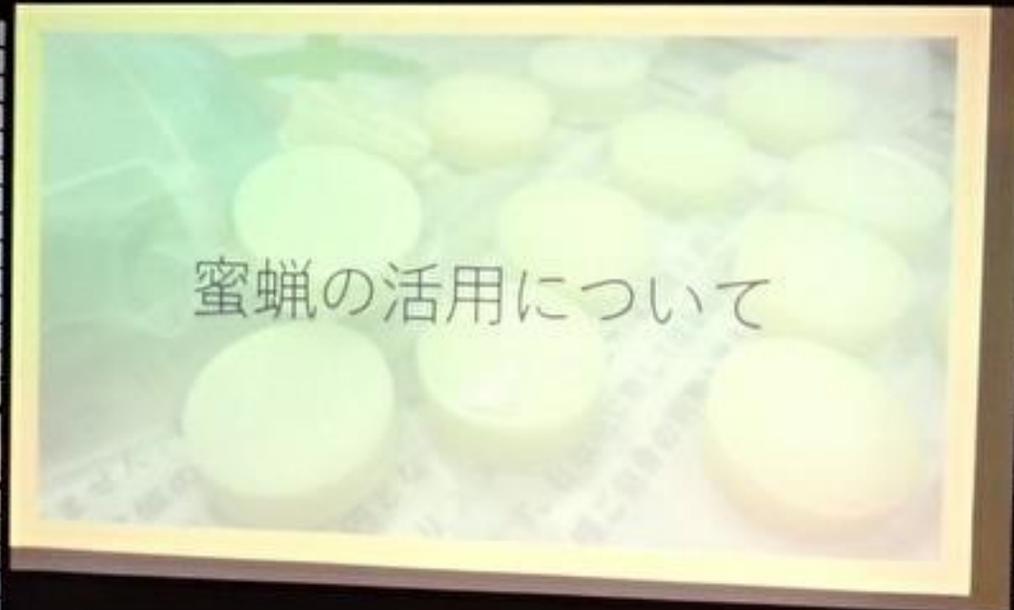
ミツロウラップ
(左は藍染めをしたもの)

体験コンテンツとしての活用を検討

- ・ キャンドルすくい
- ・ ミツロウラップづくり
- ・ キャンドルづくり
- ・ 蜜蝋精製体験

大木須にある簡易宿泊施設「ほたるの里古民家おおぎす」の
農村体験プログラムとして検討

③
取組



地元の方々に報告させていただきました！

3

取組

目標Ⅲ 地域との対話や情報共有

3

取組



巣箱の管理の体験などを通じて達成を目指す

3

取組



女王バチ探しや液糖づくりなど基本的な作業を実践！

地域の方からのコメント

- 過疎化・高齢化が進む大木須地区では持続可能な里山を目指して、養蜂事業に取り組んでいます。
- 養蜂事業を推進するには、ミツバチの生態や飼養管理技術の習得、蜜源植物の栽培、ハチミツの採取や販売、ポリネーション養蜂の開拓、担い手問題など様々な養蜂経営の課題に取り組んで行かなければなりません。

地域の方からのコメント

- この度、学生サークルの方々に「ハチミツ等の販売に関するワークショップ」を開催していただきました。地域で採取したハチミツの味や香りを皆で味わい、その価値を改めて評価しながら、ハチミツの販売のアイデアを出し合えたことは大きな成果でした。
- また、未利用資源のミツロウも精製過程やミツロウキャンドルなどの試作品をご紹介いただき、体験コンテンツのアイデアとして大変参考になりました。
- 今後とも、里山の養蜂事業の発展のために宇都宮大学の皆様のお力添えを引き続きお願いいたします。

今後の課題

蜜源・花粉源となる植物の持続的で効率的な栽培

- ・ キバナコスモス栽培法確立に向けた模索

蜂蜜販売の実現

- ・ ワークショップで出たアイデアの選択・再検討が必要
- ・ 販売の実現のための長期的な計画を立てる必要がある

今後の課題

蜜蝋を用いた体験コンテンツの具体化

- ・ どの体験コンテンツを採用するかを検討
- ・ 原料、用具の調達方法や体験手順など詳細を詰める必要がある

学生・地域間での連携の継続

- ・ 学生と地域住民が担う役割の明確化
- ・ 年度ごとに中心メンバーが変わる学生と地域のより良い関わり方の模索

ご清聴ありがとうございました！